

第2部 環境の現況と施策

第1章 持続可能な滋賀社会の構築に向けた人育ち・人育て

滋賀県では、こどもエコクラブへの参加の拡大や、省エネルギー行動の実践率、県民の買い物袋持参率の高まりなど、環境保全活動への積極的な参加がうかがえます。

こうした気運や行動をさらに加速させ、地球温暖化問題など今日の環境問題の解決や持続可能な社会の実現に向けて、私たち一人ひとりがより一層、環境に対する責任と役割を自覚し、解決に向けた行動につなげていくことが求められています。

環境教育・環境学習の推進

● 滋賀県環境学習推進計画 < 環境政策課 >

滋賀県環境学習推進計画は、平成16年(2004年)10月に策定されました。この計画は、平成15年(2003年)10月に施行された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」と、平成16年(2004年)3月に制定された全国初の環境学習推進条例である「滋賀県環境学習の推進に関する条例」に基づき策定したものです。この計画では、環境学習を通じて、環境への関心と問題解決能力を高め、主体的に行動できる人づくりを目指しています。

本県では、この計画に基づき、平成17年(2005年)6月に滋賀県環境学習支援センター(現琵琶湖博物館環境学習センター)を設置し、環境学習推進のための支援や情報提供を行う体制を整えました。また、平成19年度から森林環境学習「やまのこ」事業が始まり、新たな体験学習の場が全県規模で提供されるようになってきました。

● 琵琶湖博物館環境学習センターの役割

< 琵琶湖博物館 >

県民の主体的な環境学習を推進するための拠点として、「滋賀県環境学習支援センター」を平成17年(2005年)に開設し、平成22年度(2010年度)からは琵琶湖博物館内に設置しています。



センターでは、県の各課・機関、市町、環境学習関連施設と連携を図りながら、環境学習を担う人材の育成、滋賀らしいプログラムの収集・普及、情報や交流機会の提供などを通じて、環境学習の場づくりを担う人たちによる地域での多様で質の高い学習機会の提供を支援しています。

平成21年度は、地域の環境講座、学校での環境をテーマとした授業、職場での研修会等の企画づくりなど、242件の環境学習に関する相談を受け、サポートを行いました。

WEB <http://www.pref.shiga.jp/d/ecolife/>

● 環境学習情報ウェブサイト「エコロシーが」

< 琵琶湖博物館 >

環境学習を担う人たちを対象に、環境学習の企画やプログラムづくりに必要な学習事例・人材・施設(フィールド)・教材・環境関連データなどの情報を一元的に発信しています。

また、施設・市民団体、行政などが主催する環境学習関連イベントの情報を収集し、メールマガジン「そよかぜ」として毎月2回発行しています。



滋賀県の環境学習情報ウェブサイト「エコロシーが」トップページ

WEB <http://www.ecoloshiga.jp/>

● こどもエコクラブ

< 琵琶湖博物館 >

幼児から高校生の子どもたちが、環境を大切にする意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践していくために仲間を集めてクラブをつくり、地域環境・地球環境の学習や具体的な環境保全活動に取り組むもので、全国で取り組まれているクラブ活動です。

平成21年度は交流会の開催などを通じて、こどもエコクラブの登録拡大、活性化に努め、県内で162クラブ、6,590人の会員・サポーターが活動しました。

● 環境・ほっと・カフェ

< 琵琶湖博物館 >

環境保全行動につながる環境学習を進めていくための現状や課題解決の方策を探る機会として開催するもので、この場での出会いや意見交換を通じて、環境学



習を支えるネットワークづくりを進めます。

平成21年度は、環境学習に取り組む団体と協働しながら、「環境先進都市に学ぶ」、「食の安全、どうなの?」などをテーマに5回開催し、参加者同士の交流の場づくりを図りました。

● 環境学習を担う人材の育成と活用

■ **自然体験活動指導者養成事業** <教育委員会生涯学習課>
自然に親しむ体験活動の教育的効果を高め、安全・安心に体験活動を実施できる指導者を養成する研修会を開催し、青少年の自然体験活動を推進しています。

受講者は荒神山少年自然の家で6日間の研修を受け、講義や演習・実習を通して、自然体験活動のプログラム企画立案の助言、関係機関・講師の紹介、活動時の全体指導、活動の評価の助言を行う力をつけます。小学校などからの依頼を受け、学んだことを生かす機会もあります。

平成20年度は16名、平成21年度は29名の指導者を養成しました。平成22年度は9～11月に実施し、30名の受講生を募集します。



■ **淡海生涯カレッジ開設事業** <教育委員会生涯学習課>
環境問題をはじめとする地域の課題に対して、自ら主体的に学び、活動しようとする人材を育成するため、地域の教育機関の連携・協働のもと、公民館などでの日常的な問題意識の芽生えから、高校での実験・実習による体験的な学習を経て、大学での理論的な学習まで深めることのできる体系的な学習プログラムを「淡海生涯カレッジ」として提供しています。

平成21年度は、大津、草津、湖南、彦根、長浜の5校、

● 淡海生涯カレッジの学習の流れ ●



6コースにおいて、環境や健康などをテーマに184名の県民の方々が受講されました。

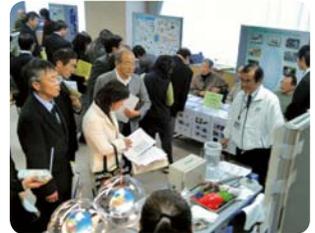
修了生の多くの方々が、学習成果を生かして地域で環境学習などの指導者やリーダーとして活躍されています。

WEB <http://www.nionet.jp/>

■ **「地域の力を学校へ」推進事業** <教育委員会生涯学習課>
「しが学校支援センター」において、学校支援ディレクターとしが学校支援センター推進員が、地域の人材を学校教育につなげる事業です。「子どもたちの学びを深めたい」、「こんな授業をしてみたい」という地域の人々や企業などの思いと、学校側の「総合的な学習の時間で、環境教育や国際理解教育に取り組んでみたい」、「地球温暖化の仕組みを詳しく知りたい」などの要望を調整し、連携授業を行えるように支援しています。



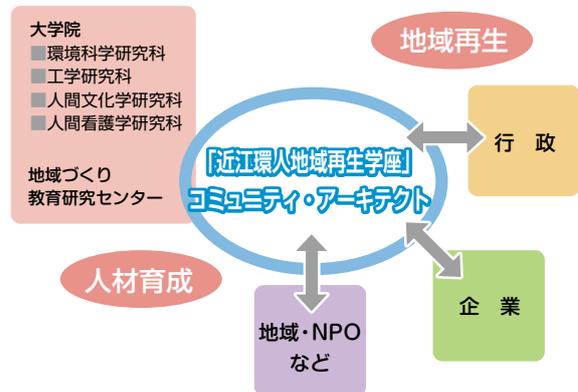
連携授業



企業・団体などによる学校支援メニューのブース出展

WEB http://www.nionet.jp/11division/kids_century/chiikinochikara_index.html

■ **近江環人地域再生学座** <滋賀県立大学>
滋賀県立大学では、平成18年(2006年)10月より大学院研究科の学生および社会人を対象に、湖国近江の風土、歴史、文化を継承し、自然と共生した美しい居住環境、循環型地域社会の形成に向けて、地域診断からまちづくり(コミュニティ活性化、環境改善、市街地再生、地域文化育成など)までの複数分野に関わる課題を横断的、統合的に捉え、行政、企業、NPOなどそれぞれの立場で地域再生のリーダーとなる資質を有した人材を育成しています。所定のカリキュラムを修了し、検定試験に合格された受講者に対しては「コミュニティ・アーキテクト(近江環人)」の称号を付与しており、これまで6回の検定試験に、計42名の方々が合格されています。



WEB <http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/gakubu/in/ohmikanjin/ohmikanjin.html>

環境教育の推進

環境教育副読本

＜教育委員会学校教育課＞

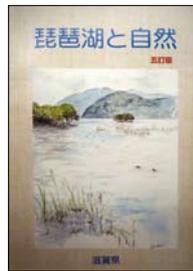
環境教育副読本を作成して、学校での環境教育に活用しています。



あおいびわ湖
(小学校編)



あおい琵琶湖
(中学校編)



琵琶湖と自然
(高等学校編)

環境教育モデル校

＜教育委員会学校教育課＞

環境教育モデル校を設置し、その研究成果を環境教育実践事例集として県のホームページに掲載することにより、各学校における環境教育の質的な充実を図っています。平成21年度は、30校が参加しました。

WEB <http://www.pref.shiga.jp/edu/gakko/environment/top.html>

環境教育研究協議会

＜教育委員会学校教育課＞

各学校における環境教育の推進および充実を図るため、教員の指導力の向上を目指して、小・中・高等学校・特別支援学校教員を対象にした環境教育研究協議会を開催しています。

エコ・スクール

＜環境政策課＞

エコ・スクール活動とは、将来の社会づくりの主役である児童・生徒が主体的に環境学習・保全活動に取り組む力を身につけることを目的として、地域の人と連携しながら学校全体で環境学習をする活動のことです。

エコ・スクールの登録をし、計画に基づく活動を実践した学校には、知事から認定証を交付しています。

平成21年度は、8校がエコ・スクールに認定されました。

体験的に学ぶ環境教育の推進

森林環境学習「やまのこ」

＜森林政策課＞

平成19年度から、小学4年生を対象に、学校教育の一環として、県内の森林環境学習施設(8施設)で、体験型の環境学習を実施しています。



次代を担う子どもたちが、森林をはじめ、環境に対する理解を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育めるよう、やまのこ専任指導員と学校が連携し、「森に親しむ学習」、「森づくり体験学習」、「森の恵み利用学習」、「森のレクチャー」などの学習プログラムを展開しています。

県土の2分の1を占める森林が、琵琶湖の水源として重要な役割を果たしていることに気づき、5年生の琵琶湖フローティングスクール「うみのこ」の学習につなげていくこともねらいの一つにしています。

平成21年度は、241校が「やまのこ」事業に参加しました。平成22年度は、全ての小学校が参加できるように取り組んでいます。

びわ湖フローティングスクール「うみのこ」

＜教育委員会びわ湖フローティングスクール＞

びわ湖フローティングスクールは、学校教育の一環として、県内すべての小学校および特別支援学校、外国人学校の5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を活用した1泊2日の宿泊体験学習を展開してきました。昭和58年(1983年)の就航以来27年目を迎え、乗船した児童も43万人を超えています。

当スクールでは「うみのこ」での学習を通じて、児童に「夢とロマン」を抱かせ、人と自然へのやさしさをもつ人間形成を行うことを目的としています。そして体験的に学ぶ様々な学習活動を通して、身近な地域の環境に主体的に関わる力や人と豊かに関わる力の育成を図っています。

中でも「びわ湖環境学習」と名付けている領域では、「琵琶湖に学ぶ、琵琶湖を通して学ぶ」をテーマに、「カッター活動」や「湖の子」水調べ」など当スクールならではの環境に関する各種の体験プログラムを用意し、各学校の教育計画に応じて実施しています。



学習船「うみのこ」とカッター活動

WEB <http://www.uminoko.jp>

農業体験学習「たんぼのこ」

＜農政課＞

子どもたちが農業への関心を高め理解を深めるとともに、生命や食べ物の大切さを学べるよう、自ら「育て」「収穫し」「食べる」という一貫した農業体験学習を平成14年度より実施しており、平成21年度は198の小学校で取り組まれました。

また、農業体験学習に加え、作物の生育観察、水田などに生息する動植物の観察といった環境学習への取り組み、地域伝統料理の学習や地元食材を利用した調理体験学習など地産地消への取り組みを「ステップアップ事業」として実施しています。

子どもたちが食べ物の大切さや農業の役割を理解し、環境に対する関心を深めていくことを目的に事業を進めています。



琵琶湖固有種ワタカで学ぶ南湖再生事業 <水産課>

琵琶湖の環境を持続的に守っていくためには、そこにすむ魚や貝など多様な生き物のはたらきが欠かせません。この事業では、水草が異常繁茂する南湖の再生を目的に、水草をさかんに食べるコイ科の魚で、現在は絶滅危惧種となっている琵琶湖固有種ワタカの種苗生産放流を実施します。これにあわせて、この特徴的なワタカの食性に着目することをきっかけに、琵琶湖にすむ生き物が環境を守る力を持っていることを実感し、在来の魚貝類の大切さと、それらを復活させるための取り組みへの理解を深めることを目的とした学習会を開催します。



水草を取り合うワタカ

環境学習の場や機会づくり

自然観察会 <自然環境保全課>

自然環境の保護・保全に関する意識の高揚や普及啓発を図るため、自然公園や身近な環境の中で、自然観察指導員のもと、観察会などを実施しています。

- ・ 県立朽木いきものふれあいの里 (電話：0740-38-3110)
- ・ 県立三島池ビジターセンター (電話：0749-55-2377)
- ・ 県立琵琶湖博物館 (電話：077-568-4811)

琵琶湖博物館 <琵琶湖博物館>

琵琶湖博物館は、「湖と人間」との関係性を過去にさかのぼって研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに、展示や交流活動を行いながら、県民とともに今後の望ましいあり方を探るための施設です。



館内には、琵琶湖の生い立ち、湖と人の歴史やその関わりを紹介した展示、琵琶湖や世界の主な湖の淡水魚を集めた水族展示、子どもたちが五感を使って楽しく学べるディスカバリールームなどがあります。このような常設展示のほか、毎年、様々なテーマで企画展示を開催し、平成21年度は、「骨の記憶ーあなたにきざまれた五億年の時ー」(7月18日～11月23日)を開催しました。平成22年度は、最先端の研究をもとに、琵琶湖深層部の湖

底の姿を紹介する「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界?～」(7月17日～11月23日)を開催しています。



住所：草津市下物町1091
電話：077-568-4811

WEB <http://www.lbm.go.jp>

水環境科学館 <下水道課>

水環境科学館は、下水道についての理解を深め、よりよい水環境づくりについて考え、学ぶことを目的とした施設です。

館内には3つの展示室(下水道ゾーン、水と環境ゾーン、水のプレイランド)、資料室、研修室などがあり、特別展示やエコトーク、エコワーク、子ども科学教室などの普及啓発事業を行っています。

住所：草津市矢橋町字帰帆2108
電話：077-567-2488

WEB <http://mizukan.jp/>

琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業 <交通政策課>

小学生の琵琶湖環状線を利用した琵琶湖一周体験学習などにかかる鉄道運賃の一部を補助することにより、環境にやさしい公共交通である鉄道に親しむ機会の提供を図っています。

◆平成21年度 参加生徒数 5,153人

琵琶湖一周ウォーキング推進事業 <交通政策課>

環境に優しく健康づくりにも役立つ最も滋賀らしい観光スタイルとして、駅を起点・終点にした分割コースで琵琶湖を歩いて一周する、公共交通機関を活用した「琵琶湖一周ウォーキング」の定着と浸透を図ります。全国からのウォーキング来客に琵琶湖の豊かな自然環境や地域の生活文化の体感と学びの機会を提供し、滋賀の魅力を発信します。

・ビワイチ観光ウォーキング認定事業(観光交流局)
(平成21年度～)

琵琶湖を歩いて一周した方を「ビワイチ観光ウォーカー」として滋賀県が認定する制度がスタートしました。

・東海道本線開業120周年記念
琵琶湖一周健康ウォーキング事業(平成21・22年度)
JR駅を起点・終点に全15回の分割コースで琵琶湖を歩いて一周するウォーキング大会を開催しています。

◆平成21年度開催実績：第1～7回
延べ参加者 4,763名